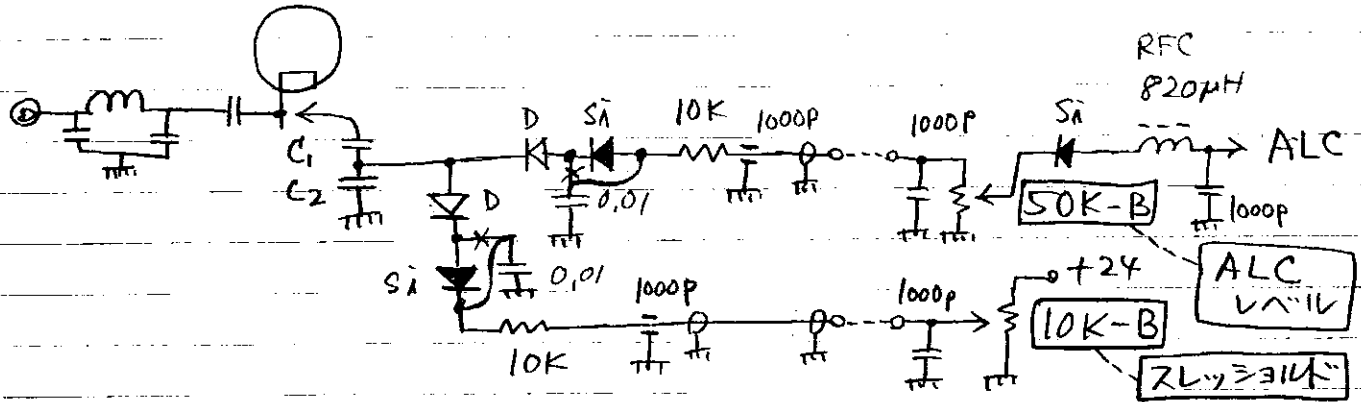


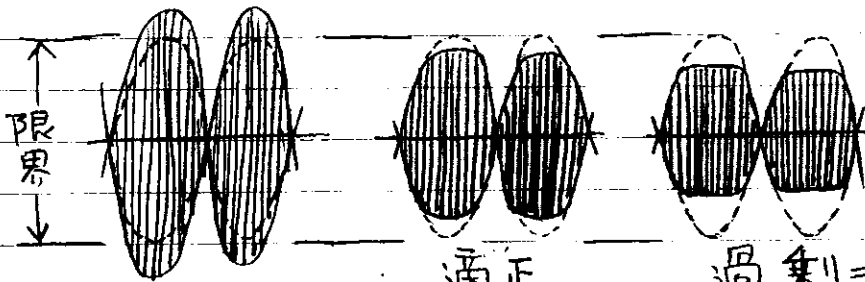
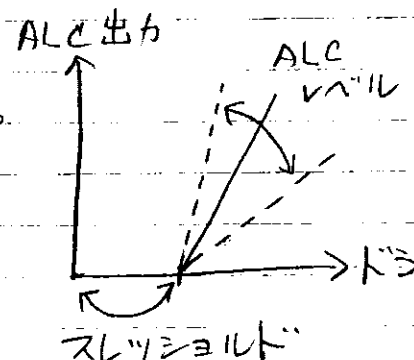
8. ALC 回路 — RF・C分割・整流型 = 必ず成功する



- 入力RF電圧を C_1-C_2 で分割し、^(一般のシリコン)ダイオード(D)で整流。シリコンダイオード(Si)は逆流防止用。
- ALC出力は最大 **30~40V** となるように $C_1 \cdot C_2$ 比を設定。
 C_2 は $100 \sim 250pF$ で良く、ドライブ電圧により C_1 を決める。
(500V~1KV-マカCが向く)
- ALC出力レベル(出力電圧の「傾き」とスレッショルト(ALCの出始めるレベル)の設定は、外部(できればエキサイターの手許)でできるようにする。いつでも必要な時はすぐ触れるとこへ!
★リグによつて、ALCルーフの設定に差違があるため、
最良レベルは各自が実験するしかないのです。

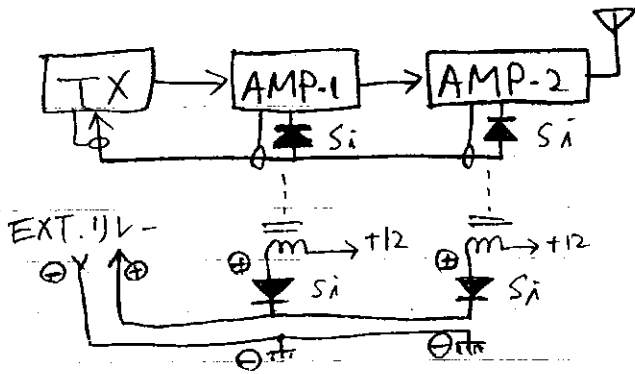
① リーフのフィルドライブにたる80%付近からALC出力が出始めるよう、スレッショルトを決める。

② ALCレベルは、各エキサイターに
適当となる範囲でかかるように決める。



不足 (オーバードライブ) → 場合によつて歪を発生(クリッピング)するかも。過負荷は危険!
過剰 = スレッショルト以上のレベルで「傾き」が大きすぎる。
オーバー・ド

(つぎ)



リレーの直並運転にも有効。

前ページの回路のALC出力なら、
逆流防止用Siは不要。

ついでに、各リレーのスタンバイ端子
をIキキターの外部control端子
1ヶで切る方法。

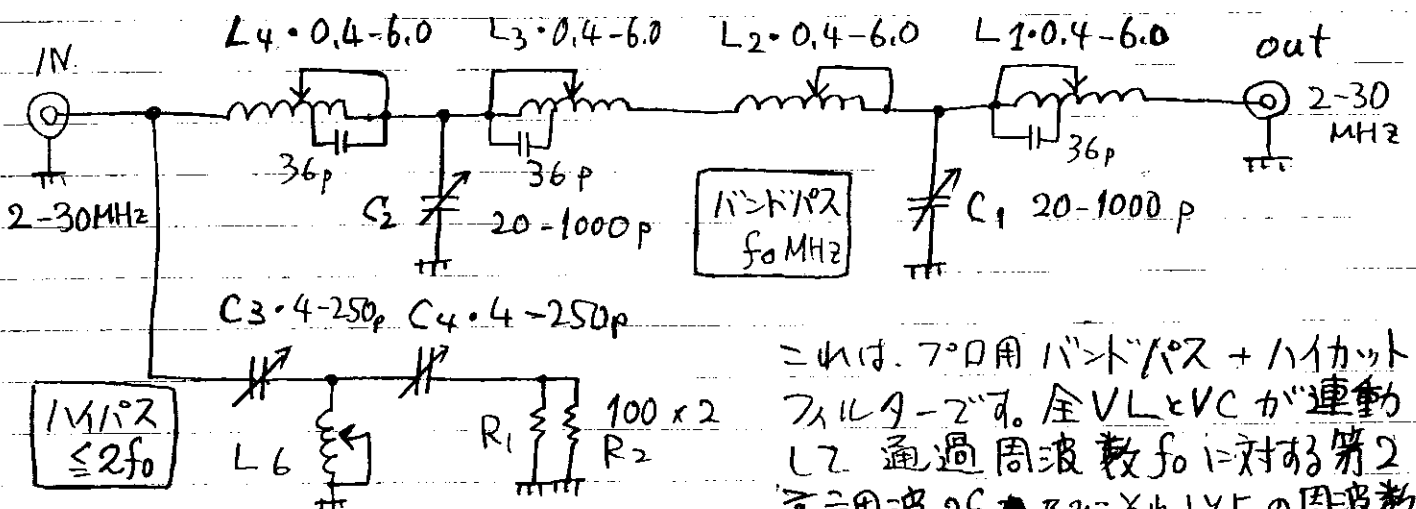
ただし、リレーの極性がこれか、この逆で、同極性であること。
(これは、先述したリレーシーケンスは得られないので注意。)
(瞬時の無負荷防止のため。や)

- ALC系の配線には必ずシールド線を用いて。
 - ① RFや1.4のまわりには特に注意する。
 - ② リレー回路などのパルスが流れるループに引っかか
ひたさないこと(たとえアース側の線でも。)

9. 高調波の軽減

どんなリレーからも高調波が出ています。場合によると

n 倍高調波以外のスプリアス発射も考える必要があります。



これは、700用バンドパス + ハイカット
フィルタです。全VLとVCが連動
して通過周波数foに対する第2
高調波2fo及それ以上の周波数
成分をRが吸収。(10~15dBの効果)